

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

|         |                  |           |  |
|---------|------------------|-----------|--|
| 事業所番号   | 3771100611       |           |  |
| 法人名     | 社会福祉法人サマリヤ       |           |  |
| 事業所名    | サマリヤ大川グループホーム    |           |  |
| 所在地     | 香川県さぬき市大川町田面1198 |           |  |
| 自己評価作成日 | 平成29年8月31日       | 評価結果市町受理日 |  |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

|          |   |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | <a href="http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/37/">http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/37/</a> |
|----------|---|

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

|       |                   |  |  |
|-------|-------------------|--|--|
| 評価機関名 | 社会福祉法人香川県社会福祉協議会  |  |  |
| 所在地   | 香川県高松市番町一丁目10番35号 |  |  |
| 訪問調査日 | 平成29年10月19日       |  |  |

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

|   |
|---|
| <p>自然に囲まれて閑静な場所にあるが、近くに主要幹線道路があり交通の便は良い。天気の良い日には、周辺の散歩を楽しんでいます。その方のペースに合わせてられるよう、個別処遇をメインに取り組んでいます。</p> |
|---|

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点】

|  |
|--|
| <p>木造平屋の日本家屋を改造し事業所としている。段差はあるが、一部スロープや手すりを設置して安全面をカバーしている。主に畳の間、障子、床の間、欄間等のある和室が居室になり、畳の上にベッド、タンス、利用者が使い慣れた家具や調度品が置かれ、くつろげる空間となっている。居室の障子を開けると中庭や裏山が望め、四季の移ろいが感じられ開放感がある。事業所のほぼ中央にリビングと食堂があり、利用者自身の椅子が配置されている。事業所の方針として「寝たきりにさせない」があり、寝・食・排泄を分離させ、利用者自身がゆっくりと移動し、介護者は急かさず、利用者のペースで生活している。隣接しているデイサービスや母体の法人施設との協力体制がある。</p> |
|--|

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項 目 |  | 取 り 組 み の 成 果<br>↓該当するものに○印 |   | 項 目 |   | 取 り 組 み の 成 果<br>↓該当するものに○印 |   |
|-----|--|-----------------------------|---|-----|---|-----------------------------|---|
| 56  | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる<br>(参考項目:23,24,25)     | ○                           | 1. ほぼ全ての利用者の<br>2. 利用者の2/3くらいが<br>3. 利用者の1/3くらいが<br>4. ほとんど掴んでいない | 63  | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている<br>(参考項目:9,10,19)   | ○                           | 1. ほぼ全ての家族と<br>2. 家族の2/3くらいと<br>3. 家族の1/3くらいと<br>4. ほとんどできていない    |
| 57  | 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある<br>(参考項目:18,38)            | ○                           | 1. 毎日ある<br>2. 数日に1回程度ある<br>3. たまにある<br>4. ほとんどない                  | 64  | グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている<br>(参考項目:2,20)                          | ○                           | 1. ほぼ毎日のように<br>2. 数日に1回程度<br>3. たまに<br>4. ほとんどない                  |
| 58  | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている<br>(参考項目:38)                 | ○                           | 1. ほぼ全ての利用者が<br>2. 利用者の2/3くらいが<br>3. 利用者の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない    | 65  | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている<br>(参考項目:4) | ○                           | 1. 大いに増えている<br>2. 少しずつ増えている<br>3. あまり増えていない<br>4. 全くいない           |
| 59  | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている<br>(参考項目:36,37)  | ○                           | 1. ほぼ全ての利用者が<br>2. 利用者の2/3くらいが<br>3. 利用者の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない    | 66  | 職員は、生き生きと働けている<br>(参考項目:11,12)                                      | ○                           | 1. ほぼ全ての職員が<br>2. 職員の2/3くらいが<br>3. 職員の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない       |
| 60  | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている<br>(参考項目:49)                | ○                           | 1. ほぼ全ての利用者が<br>2. 利用者の2/3くらいが<br>3. 利用者の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない    | 67  | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う                                       | ○                           | 1. ほぼ全ての利用者が<br>2. 利用者の2/3くらいが<br>3. 利用者の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない    |
| 61  | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている<br>(参考項目:30,31)       | ○                           | 1. ほぼ全ての利用者が<br>2. 利用者の2/3くらいが<br>3. 利用者の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない    | 68  | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う                                   | ○                           | 1. ほぼ全ての家族等が<br>2. 家族等の2/3くらいが<br>3. 家族等の1/3くらいが<br>4. ほとんどできていない |
| 62  | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている<br>(参考項目:28) | ○                           | 1. ほぼ全ての利用者が<br>2. 利用者の2/3くらいが<br>3. 利用者の1/3くらいが<br>4. ほとんどいない    |     |   |                             |   |

## 自己評価および外部評価結果

| 自己                 | 外部  | 項目  | 自己評価   | 外部評価  |                   |
|--------------------|-----|---|--|---|-------------------|
|                    |     |   | 実践状況   | 実践状況  | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| <b>I. 理念に基づく運営</b> |     |   |  |   |                   |
| 1                  | (1) | ○理念の共有と実践<br>地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている                            | 法人の理念である「愛・忍耐・技術」に基づき、職員の意見を募集し、地域密着型サービスの役割を踏まえ、事業所独自の理念として「ようこそ私たちは温かいまなざし、優しい言葉、柔和な行いでおもてなし」を策定し、玄関とホールにそれを掲げ、職員は日々それを念頭に置いて業務を行っている。 | 事業所理念は事業開始時に職員間で話し合って策定し、随所に掲示されている。随時見直しはしているが、今のところ変更はない。毎月の定例会で更に意識を促しており、日々の業務の中でも管理者が意識付けをしている。                      |                   |
| 2                  | (2) | ○事業所と地域とのつきあい<br>利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している                            | 地域の自主防災組織に参加し、災害時には協力し合える関係性を築いている。当施設は水害時の一時避難場所となっている。   | 自治会に加入し、地域の自主防災組織にも参加している。近隣、町内の行事には極力参加しようとして試みているが、利用者の体調や天候等の事情で難しいことも多い。毎月、フラワーアレンジメント、ピアノコンサート、歌等の訪問があり、地域住民と交流している。 |                   |
| 3                  |     | ○事業所の力を活かした地域貢献<br>事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている                          | 内外部の研修にできるだけ参加し、運営推進会議の場で発表している。   |   |                   |
| 4                  | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み<br>運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている       | 利用者に対するサービスや活動を報告し、意見を頂きサービスの向上に努めている。毎回テーマに応じて講師を招く等、地域への情報発信の場としている。   | 会議は参加し易い日時を設定し、事業所関係者、行政職員、自治会長、民生委員、婦人会会員等の地元関係者、家族会代表が参加し、活発な意見交換がされている。テーマは開催時にタイムリーで興味深いものを選択している。                    |                   |
| 5                  | (4) | ○市町村との連携<br>市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる                  | 介護保険課に出向いたり、運営推進会議の場で情報を頂き、施設の近況をお伝えし、協力関係を築くよう努めている。  | 地域の行事の情報をもらったり、事業所の運営に関する相談をしている。市との協力関係は築けており、適宜情報交換をしている。   |                   |
| 6                  | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践<br>代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 身体拘束に関する研修を実施し、拘束しないケアに取り組んでいる。  | 身体拘束に関する外部研修を受けた職員がレジメを回覧し、全職員に伝達研修をしている。地元で開催される民間業者や市民病院の研修会にも極力参加するよう努めている。日中は玄関の施錠をしていない。現在、ベルトやセンサーの使用はない。           |                   |

| 自己 | 外部  | 項目   | 自己評価   | 外部評価  |                   |
|----|-----|--|--|---|-------------------|
|    |     |  | 実践状況   | 実践状況  | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 7  |     | ○虐待の防止の徹底<br>管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている        | 研修の機会を作り、全職員が理解し、防止に努めている。                                   |   |                   |
| 8  |     | ○権利擁護に関する制度の理解と活用<br>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している    | 研修の機会を作り、必要な時は関係者と話し合いをしている。                                 |   |                   |
| 9  |     | ○契約に関する説明と納得<br>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている                         | 入居時や制度改定時に説明し、理解を得られている。                                     |   |                   |
| 10 | (6) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映<br>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている                     | 運営推進会議にご家族の参加を頂いたり、苦情箱を設置し、意見を求めている。要望等は職員間で話し合い、改善に取り組んでいる。 | 苦情箱を玄関に設置しているが苦情はほとんど投函されていない。家族から口頭で苦情が出た際は職員間で協議し、毎月の理事長を含む定例会でも検討し、必ず苦情の申出者に返答をしている。 |                   |
| 11 | (7) | ○運営に関する職員意見の反映<br>代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている                                      | 職員から意見が出やすい雰囲気を作り、意見のある場合は会議の場で取り上げ、話し合っている。                 | 普段から職員間で話がし易い場作りに努め、勤務の希望や業務の内容に関する事、利用者個人のケアプランに関する事などオープンに話している。毎月の定例会で解決に向けて検討をしている。 |                   |
| 12 |     | ○就業環境の整備<br>代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている      | 代表者は、職員からの意見を聴く場を設け、環境や条件の整備に努めている。                          |   |                   |
| 13 |     | ○職員を育てる取り組み<br>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている         | 代表者は、希望に応じて内外研修に参加できるように努めている。                               |   |                   |
| 14 |     | ○同業者との交流を通じた向上<br>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 地域密着型のケアマネージャー会に参加し、情報交換、困難事例の検討を行っている。                      |   |                   |

| 自己                          | 外部  | 項目   | 自己評価   | 外部評価  |                   |
|-----------------------------|-----|--|--|---|-------------------|
|                             |     |  | 実践状況   | 実践状況  | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| <b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b> |     |  |  |   |                   |
| 15                          |     | ○初期に築く本人との信頼関係<br>サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | ご本人の心身状態を把握し、希望や要望に応え、安心できる場になるよう関係づくりに努めている。                        |   |                   |
| 16                          |     | ○初期に築く家族等との信頼関係<br>サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている            | 事前の話し合いで、ご本人やご家族の困りごと、不安なことを話し合い、当施設でできる事、できない事の説明、納得の上でサービスを提供している。 |   |                   |
| 17                          |     | ○初期対応の見極めと支援<br>サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている        | ご本人やご家族の話を傾聴し、必要な支援ができるよう努めている。                                      |   |                   |
| 18                          |     | ○本人と共に過ごし支えあう関係<br>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている                        | できることは役割として、していただき、支えあって暮らしていけるような雰囲気づくりをしている。                       |   |                   |
| 19                          |     | ○本人を共に支えあう家族との関係<br>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている         | いつまでもご家族の一員として考え、ご家族に協力していただける様、声をかけさせていただいている。                      |   |                   |
| 20                          | (8) | ○馴染みの人や場との関係継続の支援<br>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている                     | 地域行事に参加したり、なじみの人や場に出かける機会を絶やさないように努めている。                             | 利用者が入居前に家族や馴染みの関係だった親類、知人等交流できる人や場所との関係を継続する支援に努めている。現在、生活を共にする利用者同士の関係にも着目し、仲よし同士で折紙をしたり等の支援もしている。 |                   |
| 21                          |     | ○利用者同士の関係の支援<br>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている                 | 日中は利用者がホールで過ごし、個別ケアを基本に、レクリエーション等での互いの関係づくり等に努め、利用者が孤立しないよう配慮している。   |   |                   |

| 自己                                 | 外部   | 項目   | 自己評価   | 外部評価   |                   |
|------------------------------------|------|--|--|--|-------------------|
|                                    |      |  | 実践状況   | 実践状況   | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22                                 |      | ○関係を断ち切らない取組み<br>サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている                    | やむを得ず退所されることになっても、相談や支援を継続し、不安なく過ごせるように努めている。  |  |                   |
| <b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b> |      |  |  |  |                   |
| 23                                 | (9)  | ○思いや意向の把握<br>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している   | ご本人の希望や意向は、ご家族を交えて話し合い、それにそった支援をしている。また困難と思える場合には、職員間で話し合い、ご家族とも相談しながら今までの生活歴や暮らし方を尊重し、希望や意向に沿えるよう努めている。 | 利用者自身が思いや意向を表明できない場合は、生活場面での表情等で汲み取っている。家族からの聞き取りからも情報を得ている。毎月の定例会で利用者の具体的な支援の基本となる利用者の思いや意向を職員間で協議している。 |                   |
| 24                                 |      | ○これまでの暮らしの把握<br>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている                                       | 入居時にご本人や家族から生活歴に関することは聞き、今までの生活歴や暮らし方が継続できるよう、その方の理解に努めている。  |  |                   |
| 25                                 |      | ○暮らしの現状の把握<br>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている   | 日々の生活の中で現状に変化が生じた場合は、職員間で話し合っている。日々の生活のペースに合わせ支援し、心身状態などは朝夕の申送り等で職員間で共有している。                             |  |                   |
| 26                                 | (10) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング<br>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 担当者会議等の場で意見を頂いたり、面会時、電話連絡等での話し合いを基に介護計画を作成している。  | 職員は日常的に利用者の方の様子を観察し、身体状況の変化や新たな課題、問題点が発生していないかを見極めるよう努めている。担当者会議では家族の思いや意見とともに医療、看護の専門職にも参加を求め、意見を聞いている。 |                   |
| 27                                 |      | ○個別の記録と実践への反映<br>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている                        | 個別記録のあり方を検討し、介護計画に活かせるように工夫、模索している。  |  |                   |
| 28                                 |      | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化<br>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる               | 本人の心身状態を把握し、希望や要望に応え、安心できる場になるよう関係作りに努めている常にその時の状況、希望や要望に応えられるように柔軟な支援に努めている。                            |  |                   |

| 自己 | 外部   | 項目  | 自己評価   | 外部評価   |  |
|----|------|---|--|--|--|
|    |      |   | 実践状況   | 実践状況   | 次のステップに向けて期待したい内容  |
| 29 |      | ○地域資源との協働<br>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している                                      | デイの音楽会やボランティア等に参加し、暮らしの中での楽しみ事が見つけられるように支援している。              |  |  |
| 30 | (11) | ○かかりつけ医の受診支援<br>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している                                  | 入居以前からかかりつけの医師の基に受診し、往診も依頼している。                              | 現在の利用者は比較的身体状況が安定しており、定期的に市内の医療機関に受診している。皮膚科、眼科等は、医療機関に必要時に受診している。歯科の往診は、必要時に依頼している。       |  |
| 31 |      | ○看護職との協働<br>介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している                          | 体調管理などは看護職員が担当し、介護職員が安心して相談できるようにしている。                       |  |  |
| 32 |      | ○入退院時の医療機関との協働<br>利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院時は職員が交代で顔を見せるようにし、本人が安心できるようにしている。その都度、病院関係者とも話し合いができています。 |  |  |
| 33 | (12) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援<br>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる  | 重度化、終末期にも安心して過ごして頂ける様に入居時に説明ができています。                         | 入居時に重度化、終末期の対応についての聞き取りをし、いつでも変更可能としている。看取りについては特に慎重な対応としている。利用者が急変した場合は24時間往診が依頼できる体制である。 |  |
| 34 |      | ○急変や事故発生時の備え<br>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている  | 内部研修や外部研修へ参加する事により、実践力を身に付けている。                              |  |  |
| 35 | (13) | ○災害対策<br>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている  | 定期的に避難訓練を実施し、実践力を付けている。                                      | 年に2回消防立会いの避難訓練を実施している。近くの集会場と寺が避難場所になっている。事業所自体は水害時の一時避難所となっている。台所はオール電化になっている。            | 建物自体は強固な作りであるが、内部の固定やガラスの飛散防止等、利用者の安全確保の具体的な方法の検討を期待したい。昼夜を問わず、利用者全員が避難できる方法を職員が身に付けることを期待したい。 |

| 自己                               | 外部   | 項目   | 自己評価                           | 外部評価  |                   |
|----------------------------------|------|--|--------------------------------|---|-------------------|
|                                  |      |  | 実践状況                           | 実践状況  | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| <b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b> |      |  |                                |   |                   |
| 36                               | (14) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保<br>一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている                   | 尊厳が損なわれない対応を普段より心掛けている。        | 毎月の定例会で必要に応じて言葉遣いの勉強会をしている。介護場面では気付いた時にすぐに注意を促すように心がけている。   |                   |
| 37                               |      | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援<br>日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている                     | 簡単な事でも希望が表せるように配慮している。         |   |                   |
| 38                               |      | ○日々のその人らしい暮らし<br>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | その方に合った暮らし方が出来るように支援している。      |   |                   |
| 39                               |      | ○身だしなみやおしゃれの支援<br>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している                                  | 個性や好みを尊重している。                  |   |                   |
| 40                               | (15) | ○食事を楽しむことのできる支援<br>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている     | 盛付、下膳など出来る事はしてもらっている。          | 調理前の簡単な下準備や下膳等は利用者到手伝ってもらっている。誕生会ではケーキ作りをしたり、献立を相談している。庭の畑での野菜の収穫や裏山の筍を使っての調理の際には利用者ができることを手伝っている。食事はゆっくりと急かさずできる限り自力で摂取している。 |                   |
| 41                               |      | ○栄養摂取や水分確保の支援<br>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている          | 一人一人の状態を把握し無理なく飲食できている。        |   |                   |
| 42                               |      | ○口腔内の清潔保持<br>口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている                   | 毎食後、一人一人の状態に応じて、口腔ケア用品を使用している。 |   |                   |

| 自己 | 外部   | 項目  | 自己評価  | 外部評価  |                   |
|----|------|---|---|---|-------------------|
|    |      |   | 実践状況  | 実践状況  | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (16) | ○排泄の自立支援<br>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている                              | 一人一人に合わせて声掛け、介助等、対応している。                            | 定時にトイレ誘導する事で日中は全利用者がトイレで排泄している。下剤で排便コントロールをしている利用者もいるが、ほとんどは食事、水分、運動での自然排便をしている。排泄はほとんど維持でき、入居当初より改善された事例がある。 |                   |
| 44 |      | ○便秘の予防と対応<br>便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる  | 水分補給、体操等、取り入れている。                                   |   |                   |
| 45 | (17) | ○入浴を楽しむことができる支援<br>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている                             | 食事の時間帯との兼ね合いなどで時間帯はほぼ決まっているが、ゆったりと入浴を楽しめる雰囲気を作っている。 | 家庭用の浴室に手すりや入浴用椅子を設置して職員とマンツーマンでゆっくりと入浴している。入浴を強制せず、清拭対応に変更したり、1日ずらしたりと柔軟な対応をしている。食事時間を考慮し活動の合間を有効に活用している。     |                   |
| 46 |      | ○安眠や休息の支援<br>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している   | その方の生活習慣に合わせて休んでいたっている。                             |   |                   |
| 47 |      | ○服薬支援<br>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている  | 処方を受ける時は医師に状態報告をしている。                               |   |                   |
| 48 |      | ○役割、楽しみごとの支援<br>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている                             | 生活歴を基に個々に応じた役割、楽しみ事の希望に沿える様に支援している。                 |   |                   |
| 49 | (18) | ○日常的な外出支援<br>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 天候によって近所への散歩。買い物等の支援も出来る限り行っている。                    | 時候の良い時は福祉車両を使い外出をしている。また、隣接するデイサービスでのイベントに参加したり、庭での外気浴で気分転換を図っている。受診は場合によっては家族に依頼している。盆や連休等に家族と帰省する事例がある。     |                   |



| 自己 | 外部   | 項目   | 自己評価  | 外部評価  |                   |
|----|------|--|---|---|-------------------|
|    |      |  | 実践状況  | 実践状況  | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 |      | ○お金の所持や使うことの支援<br>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している  | 少額ではあるが個人で大切に持っている方もいる。                           |   |                   |
| 51 |      | ○電話や手紙の支援<br>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている   | 職員が電話連絡をする時は代わってお話ができるように配慮している。                  |   |                   |
| 52 | (19) | ○居心地のよい共用空間づくり<br>共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 自然な採光があり空気の入替えも定期的に行っている。                         | 居室横、リビングには大きなガラス戸があり、外の様子が存分に望め、自然光や暖が取れ、季節感が感じられる。リビングの壁面は毎月季節感のある物に取り替えられる。玄関やリビングには庭の花がさり気なく活けられており、利用者の作品が展示されたり、利用者の好きな音楽が流されたりして快適な空間になるよう工夫している。 |                   |
| 53 |      | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり<br>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている  | ホールでは一人一人に馴染んだ椅子を使用し、思い思いに過ごされている。                |   |                   |
| 54 | (20) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮<br>居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている  | 小物類、筆筒、仏壇と一人一人馴染んだものを使用している。                      | 民家を改造した建物のため、居室は1室ずつ異なった趣きになっている。畳の間や障子、床の間、欄間等、昔ながらの日本家屋で落ち着ける空間になっている。利用者自身の私物がたくさん置かれて個別性がある。スロープ、スプリンクラー・空調・防災カーテン等安全性に配慮している。                      |                   |
| 55 |      | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり<br>建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している   | 利用者は一年以上ここで生活している方達で、慣れ親しんだ環境下で安全に過ごせるように工夫出来ている。 |   |                   |